

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

長崎県長崎県病院企業団 上五島病院

| 法適用区分 | 業種名・事業名 | 病院区分    | 類似区分          | 管理者の情報     |
|-------|---------|---------|---------------|------------|
| 条例全部  | 病院事業    | 一般病院    | 100床以上～200床未満 | 学術・研究機関出身  |
| 経営形態  | 診療科数    | DPC対象病院 | 特殊診療機能 ※1     | 指定病院の状況 ※2 |
| 直営    | 18      | 対象      | ド透未訓          | 救臨感へ災      |
| 人口（人） | 建物面積（㎡） | 不採算地区病院 | 看護配置          |            |
| -     | 13,954  | 非該当     | 10:1          |            |

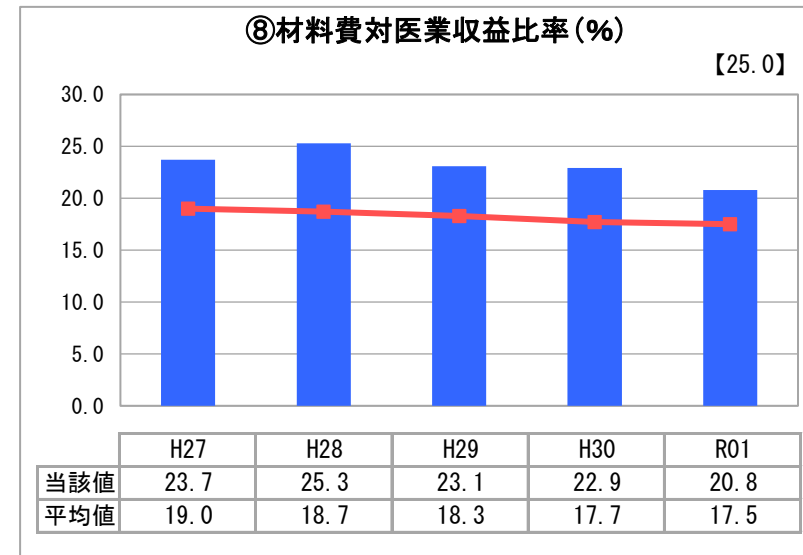
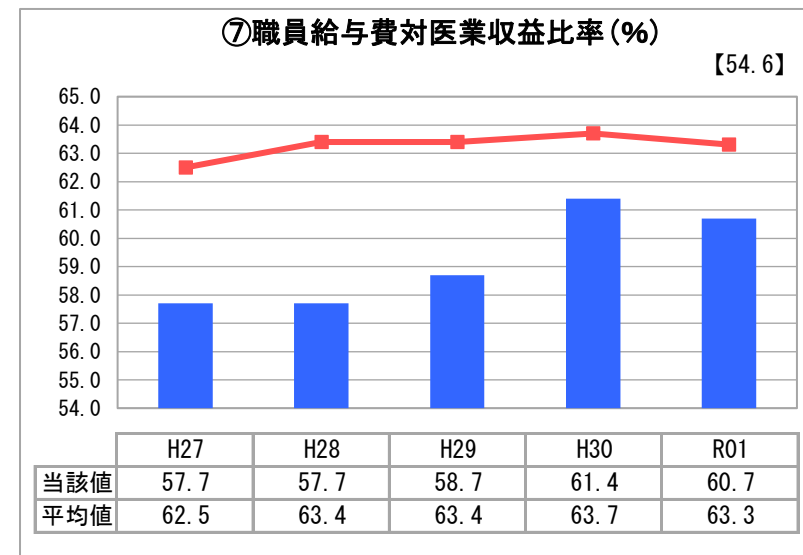
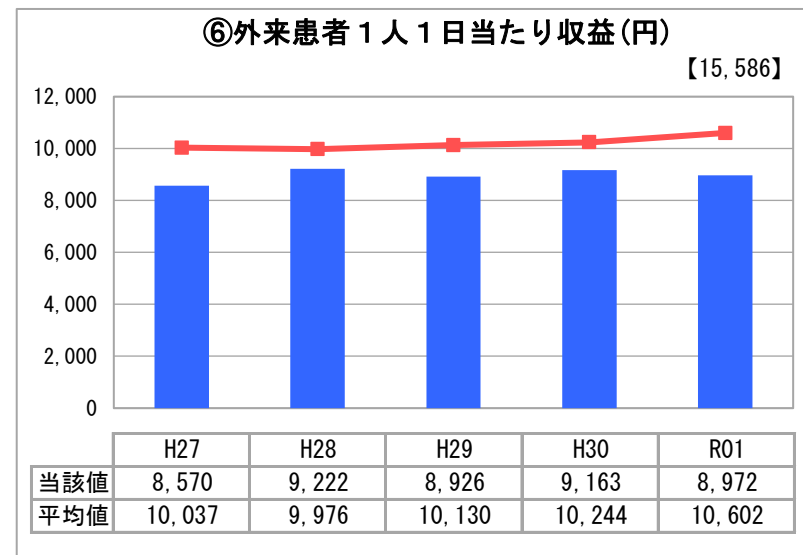
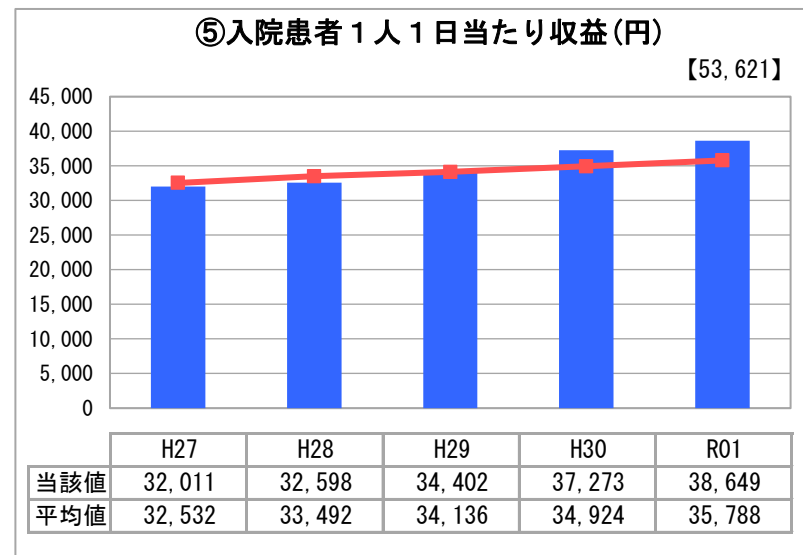
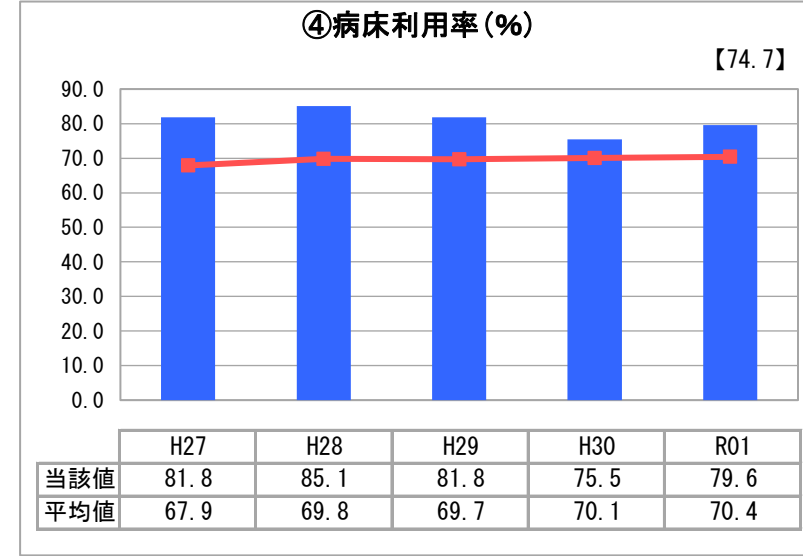
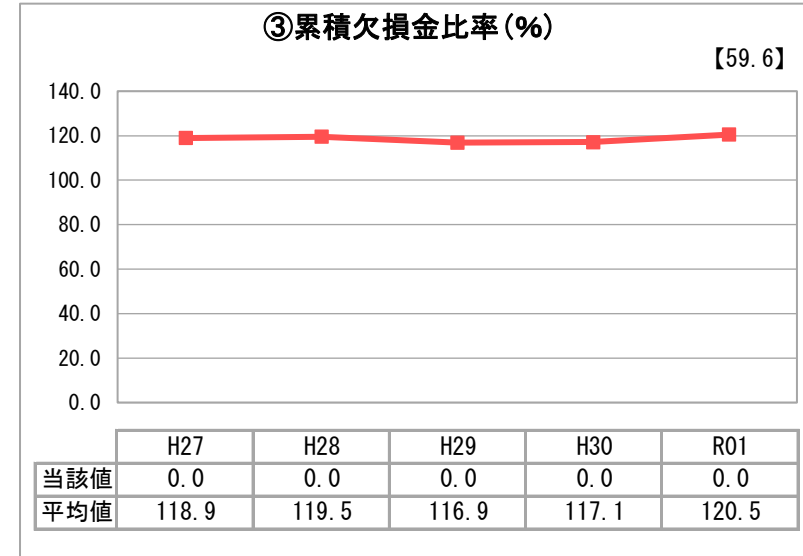
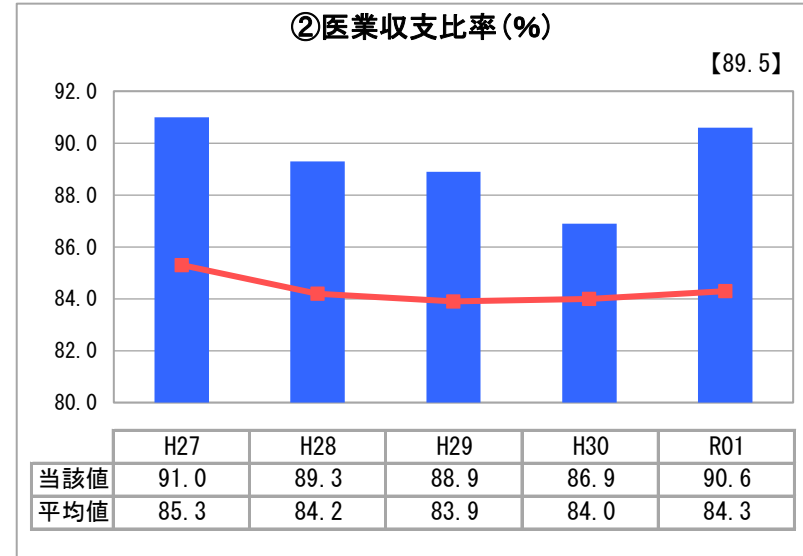
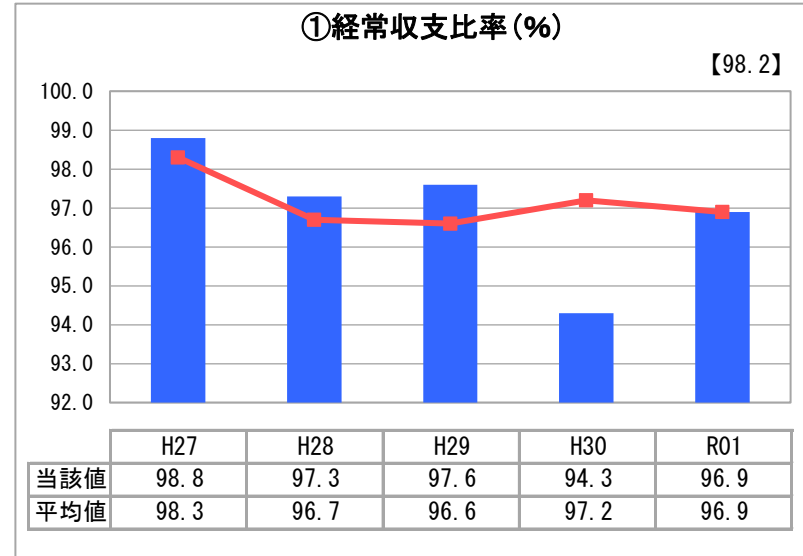
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

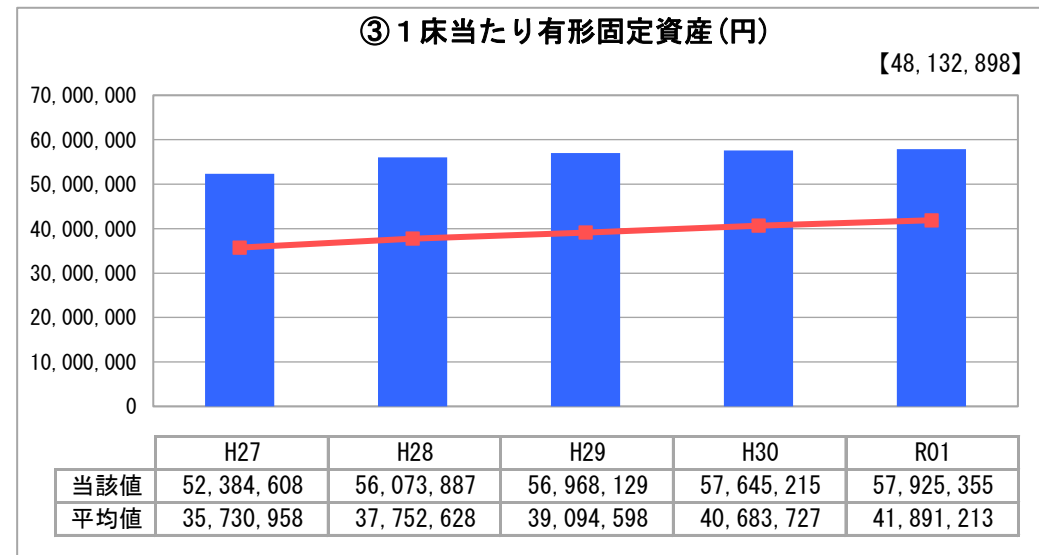
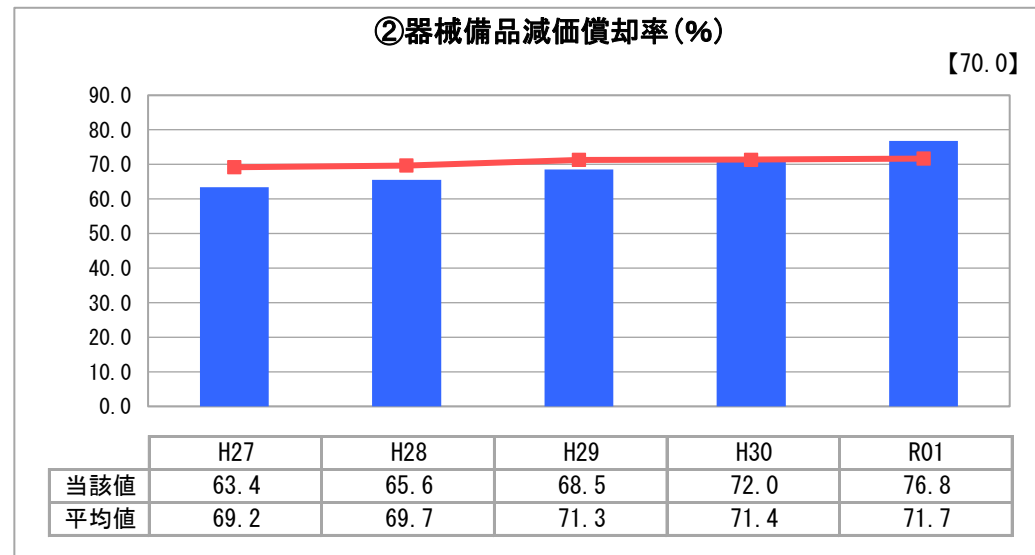
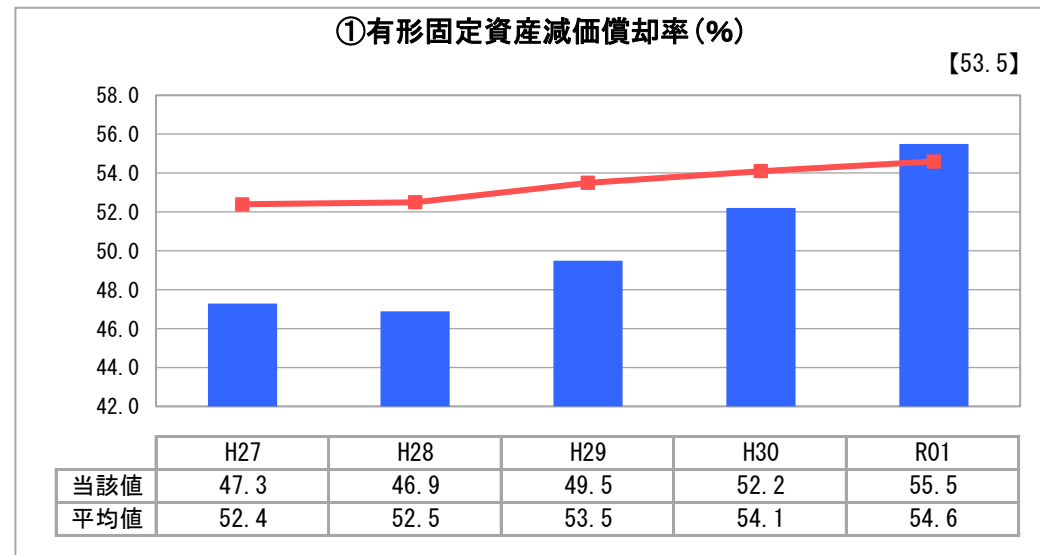
| 許可病床（一般） | 許可病床（療養）  | 許可病床（結核）    |
|----------|-----------|-------------|
| 132      | 50        | -           |
| 許可病床（精神） | 許可病床（感染症） | 許可病床（合計）    |
| -        | 4         | 186         |
| 稼働病床（一般） | 稼働病床（療養）  | 稼働病床（一般+療養） |
| 132      | 50        | 182         |

| グラフ凡例        |              |
|--------------|--------------|
| ■            | 当該病院値（当該値）   |
| —            | 類似病院平均値（平均値） |
| 【】 令和元年度全国平均 |              |

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

| 再編・ネットワーク化 | 地方独立行政法人化 | 指定管理者制度導入 |
|------------|-----------|-----------|
| 平成26年度     | -         | -         |
| 年度         | 年度        | 年度        |

## I 地域において担っている役割

上五島医療圏で唯一の入院機能を有する中核病院として、急性期、小児・周産期、精神、救急、災害、へき地医療を提供している。  
地域のニーズに合った病床機能への転換を行うとともに、基幹病院と附属診療所のそれぞれの医療機能の特徴を活かし、地域に信頼される安定的でより良い医療を目指している。  
行政、他医療機関、介護施設等との連携を密にして地域医療・包括ケアの充実に努めている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

入院患者1人1日当たり収益は、外科系手術の収益増と令和元年8月から地域包括ケア病床を10床増床した影響により、前年度よりも大きく増加した。外来患者1人1日当たり収益はやや減少したものの、眼科患者数の増加により外来収益は増収であった。医業収支比率、病床利用率の改善により、経常収支比率は前年度よりも改善し、平均値まで回復した。医師等医療従事者確保により給与費自体は増加したが、収益増により給与費対医業収益比率は減少している。材料費対医業収益率も同様の理由で減少しているが平均値を上回っているため、適正在庫の管理等コスト削減に取り組んでいく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

当院は昭和61年に建築されており、これまで改修・増築工事を行ってきた。有形固定資産減価償却率・器械備品減価償却率ともに増加傾向にあり、老朽化が進んでいる。1床当たり有形固定資産についてはほぼ横ばいである。経年劣化が著しい器械の更新や、この地域の二次医療までを担っていくための設備整備が必要であり、また業務効率化を図るための新規の器械導入を行ってきたためである。  
今後も過大投資とならないよう、経営状況を考慮しながら計画的に設備投資を行っていく。また、新病院建設に向けて病院機能・規模等の方向性を十分に検討していく必要がある。

### 全体総括

令和元年度は前年度よりも収支は改善したが、今後も医師を始め医療スタッフ確保のための費用や修繕・減価償却費が引き続き負担となることから、厳しい経営状況が続くと思われる。可能な限り各種経費の削減に努めるほか、業務改善により人員の適正配置について検討する等、組織全体で収支改善に取り組んでいく必要がある。  
人口減少・高齢化の影響もあり、患者数は減少傾向にあるが、地域住民の需要に応えながら医療の充実を図りつつ、患者数の確保・経営の健全化を目指していく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。